

日本保険学会 平成 23 年度第 1 回理事会議事録

●日時： 平成 23 年 5 月 13 日（金）17：00～18：30

●場所： 損保会館

1. 審議事項

（1）入退会者

江澤理事長より 入会者13名、退会者11名の説明があり、異議なく了承された。

（2）賛助会員

理事長より 平成23年度より日本共済協会が新たに賛助会員となったことが報告された。昨年度退会となったかんぽ生命の賛助金減少分の穴を埋める形となる。

（3）平成23年度大会・総会関係について

福田大会企画部長から、現時点での検討内容につき、以下のとおり披露があった。

- ・水島先生の記念講演テーマ、韓国保険学会からの報告者ならびに報告テーマ、シンポジウムの報告者2名ならびに全員のテーマ、さらに共通論題のテーマが現時点で未定である。
- ・自由論題については前回未報告であった早川 淑人氏（札幌学院大学）の報告テーマならびに、未決定であった法律系の1名の報告者およびテーマにつき、以下の通り提案したい。

報告者：早川 淑人（札幌学院大学）

テーマ：PTA安全補償制度運営上の諸問題 - アンケート結果に対する一考察

報告者：深澤 泰弘（岩手大学）

報告テーマ：生命保険における質権設定と保険金受取人の法的地位

この2名の報告者・テーマにつき、承認した。

なお、「シンポジウムについては、司会者の久保理事が、司会とパネラーを兼ねる形となっているが、できれば別の人を立てたほうがよいのではないか。」との意見があった。久保理事より、「理想的にはそのとおりであるが、このテーマで研究している適当な先生が見当たらないため、やむをえないと考えている。」との回答があった、

昨年の共通論題を初めとして、過去にも例があるので了承した。

（4）平成22年度収支決算書（案）

事務局から 平成22年度収支決算書(案)について、以下の通り説明と提案があった。今回は、従来どおりの現金ベースの会計と発生ベースの2つの決算案を提出している、以前から監事より発生主義ベースの会計を行うべきとの勧告をうけていたが、これまで実施されていなかったものである。発生主義をとり入れることで、学会の財産状態をより正確に説明できるようになる。なお、本来の発生主義会計であれば、「未収金」勘定もたてるべきであるが、未収金の実態としては個人年会費の未払い分のみであり、些少であるので、今回は「未払金」勘定のみ新たに設けることとする。決算の年度毎

のぶれを回避するためには、発生主義ベース会計を取り入れるべきと考えるので、理事会の了承を得たい。

特に反対意見なく、理事会としては、平成22年度決算より発生主義会計制度を導入することとした。

次いで編集委員会、関東部会、関西部会、九州支部の責任者より、それぞれ平成22年度収支決算状況の報告があり、異議無く承認された(九州支部については、事務局が報告を代行)。なお、部会ごとに例会での報告者に対する謝礼の扱いが違っているが、部会自治ということから、現状を承認するものとした。

引き続き、濱監事より監事を代表して監査結果の報告があった。なお、監事から、平成17年に「剰余金が学術交流積立金の形で積みあがっている状況は好ましくなく、学会活動の活性化などに向け、検討すべき」と指摘した経緯がある。その後も同積立金は、毎年650万円程度の残高で不変につき、有益で活発な学会活動に向け、真摯な検討を望む、との指摘があった。理事長より、この問題は企画委員会を中心に検討していきたい、との発言があり、これを了承した。

(5) 平成22年度事業報告書(案)

理事長より 事務局作成になる平成22年度事業報告書(案)について、この報告書(案)は時間の関係もあり、今回は審議せず、各自持ち帰り意見がある場合は、事務局まで連絡することとするよう提案があった。7月の理事会で最終的に承認するものとした。

2 . 報告事項

(1) 日本保険学会賞

理事長より 本日開催された第1回学会賞選考委員会の内容につき、委員の互選により、押尾理事が委員長に選出されたとの報告があり、押尾理事より 委員長就任の挨拶があった。次いで、事務局より 第1回学会賞選考委員会の進め方につき説明があった。

(2) 委員会等報告

保険学雑誌編集委員会

井口委員長より 以下の報告があった。

1 . 大会、部会報告の「保険学雑誌」掲載状況

2 . 査読報酬の増額以外の部分

(a)査読制度の運用変更

(b)「査読の手順と留意点」と題する、査読者への送付書類に関する改定案の説明。特段の意見はなかった。

3 . 査読報酬および書評執筆謝礼の増額(提案)

学会の支出を伴うものであることから、審議事項として次回理事会に諮るものとした。

4．保険学雑誌2012年12月特集号

ここ数年、保険学雑誌12月号は特集形式で発行してきている。来年12月号(619号)については、当初は保険教育を特集テーマとすることを予定していたが、その後テーマを変更し、東日本大震災を取り上げることに決定した。

ホームページ委員会

明田委員長より 以下の通り報告があった。

- ・ 3月11日発生の東日本大震災に伴う計画停電の影響により、NIIが管理する学会のサーバーが1ヶ月以上不通(アクセス不能)となっていたが、現在は復旧している。今後、自前のサーバーを設けることでこのような問題は解決できる見込み
- ・ 学会の英文ホームページの充実を図るべきとの意見がある、各委員会の協力を得ながらすすめていきたい。

国際交流委員会

福田理事より 今井委員長の代理として、本日、韓国保険学会が開催されており、石田評議員が派遣されている、との報告があった。

次いで、久保理事より 中国保険学会会長訪問について報告があった。日本保険学会としては、初めての訪問ということもあり、歓迎されたとのこと。同学会は活動実態もしっかりしたものであるようであり、今後どう交流していくかにつき、国際交流委員会で論議していくこととする。

なお、中林評議員が「生命保険経営」に投稿したAPRIAに関する報告が参考までに配布された。

(5) 関東部会、関西部会報告

甘利部会長および羽原部会長から 報告があった。関東部会の3月例会は、東日本大震災のために中止、次回6月の例会は6月4日(土)に早稲田大学で行う予定にしている。試験的に土曜日開催とする。

(6) その他

福田部会長より 大会企画部会にて 来年度大会においては、「東日本大震災と保険というテーマをとりあげたらどうか、という議論が行われたと報告された。

以 上